

避難方法や避難場所について話し合い、いざというときは早めに避難

台風や大雨は、浸水被害だけでなく「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」などの土砂災害の危険性があります。

土砂災害の危険箇所は、各家庭にお配りしている加西市防災マップに示しています。また、市ホームページや県ホームページ（兵庫県CGハザードマップ）でも確認できます。近くに危険箇所があるか確認するとともに、被害を最小限に抑えるために、一人ひとりが雨量や雨の降り方などの気象情報に注意してください。

大きな被害が予想される場合は、市から避難情報を発令（かさい防災ネット、テレビ、ラジオ、広報車等）します。日頃から、避難方法や避難場所について家族で話し合い、いざというときは早めに避難するようにしましょう。

避難場所については、小中学校、公民館、最寄りの施設などを防災マップで確認してください。

■市が発令する避難情報

種類	発令の意図	避難行動
避難準備情報	雨量や河川の水位の上昇で災害発生の危険性があり、避難の準備を求める。高齢者や身体の不自由な方など、避難に時間を要する方は避難の開始を求める。	対象地区の方は、家族等との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を行い、状況により自主避難する。また、高齢者や身体の不自由な方は避難を開始する。
避難勧告	災害発生の危険性が高まり、対象地区の方に避難行動の開始を求める。	対象地区の方は、近隣の方にも声をかけて、避難を開始する。また、対象地区以外の方も状況により自主避難する。
避難指示	災害発生の危険性がさらに高まり、市民に避難の完了を求める。	避難勧告等の発令後で避難中の方は、直ちに避難を完了する。避難していない方は、すぐに避難行動を開始する。避難する時間がない場合は、自宅または近くの高い所への避難、安全な場所へ移動する。

■携帯電話でかさい防災ネットに登録しよう！

市内に災害が起きた際に「かさい防災ネット」に登録していると、避難勧告や避難所などの防災情報が携帯電話のメールへ自動配信され、いち早く情報を得ることができます。また、気象情報（気象警報や土砂災害警戒情報）を得ることもできます。

QRコード



台風などによる自然災害に備えて

自然災害発生時に被害を受けた住宅などの再建・補修を支援。フェニックス共済に加入を！

	住宅再建共済制度	家財再建共済制度
対象災害	異常な自然現象により生じる、あらゆる自然災害（地震、台風、暴風、豪雨、洪水、豪雪など）	
共済負担金	年額 5,000 円／戸 ※加入初年度は月額 500 円（上限 5,000 円）	年額 1,500 円／戸 ※加入初年度は月額 150 円（上限 1,500 円）
共済給付金	住宅が半壊以上の被害を受けた場合 建築・購入 ／600 万円 補修 ／全壊 200 万円、大規模半壊 100 万円、半壊 50 万円 建築・購入・補修をしない場合 ／10 万円 ※プラス年額 500 円で一部損壊特約（ 建築・購入・補修 ／25 万円給付 建築・購入・補修をしない場合 ／10 万円）	住宅が半壊以上または床上浸水の被害を受けた場合 家財を補修・購入 ／全壊 50 万円、大規模半壊 35 万円、半壊 25 万円、床上浸水 15 万円
申込方法	所定の申込書に必要事項を記入し、(公財) 兵庫県住宅再建共済基金へ申し込みください。 (申込書は市危機管理課、加西郵便局、北播磨県民局にあります)	

■加西市災害支援金を上乗せ

昨年 10 月に加西市独自の災害支援金制度を創設し、フェニックス共済の加入者を対象に、加西市災害支援金を上乗せして支給します。

全壊／50 万円 **大規模半壊、半壊**／25 万円 **一部損壊**／15 万円 **床上浸水**／5 万円

新専門医制度

■どうやって医師を選びますか？

病気になって医師にかかろうとする際、何を頼りに選びますか？大抵1位になるのは「身近の病院や医院」です。これは病気のある方にとってアクセスがいかに大事かを示しています。加西病院が加西市に存続する価値を支持してくれる回答です。また、「口コミ」がいつも上位に選ばれるのは心すべきことと思っています。

一方、今回テーマとして取り上げた「専門性」は中間位に位置します。病気にもよるでしょうが、一般のアンケートでは専門医の価値は最重要と思われていないようです。



平成27年後期研修医の皆さん

■専門医制度が変わります

専門医制度が平成29年4月に大きく変わります。このところ国の医療制度改革は、地域医療構想、保険制度改革、新公立病院改革と矢継ぎ早で、さらに専門医制度改革も加わります。

どのように変わるかと言えば、資格認定の条件が厳格になり、認定者がこれまでの学会から国が承認する日本専門医機構に移ります。機構が専門医のみならず専門研修基幹病院をも認定します。

内科と外科はそれ自体専門性を持った一領域ですが、その中で心臓や消化器といった個別の領域に分かれるため、一旦総合的な専門医資格を得てから個別の専門医を目指す二階建て構造になります。

このことは資格取得まで他科より時間がかかることを意味し、内科・外科を目指す医師が減るかもしれないと危惧されています。

■新専門医制度は平成16年施行の臨床研修制度の混乱を思い出させる

新専門医制度では、初期臨床研修2年間を終えた若い医師が専門研修プログラムを元に全国の基幹病院に応募する方式となります。これは、平成16年に施行された臨床研修制度と同じ構図です。全国的に地方病院の医師不足が起こり、地域医療崩壊を引き起こしました。今回の新専門医制度でも、地方の中小病院に若手医師が来なくなると予想され、影響は深刻です。

新しい専門医制度では大規模病院が若手医師を集めるのに有利であり、しかもその傾向が毎年再生産されます。中小病院が中核機能を担う地域では、医師の不足から地方医療の危機が懸念されます。そのような危険を冒してまで国が専門医制度改革を進めようとする意図は「国民に分かりやすい専門医制度を作るため」と説明しています。国民は医療へのアクセスを犠牲にしてでも制度の分かりやすさを優先したいのでしょうか。

■加西病院と新専門医制度

専門研修基幹病院の審査と認可は、今秋から日本専門医機構で行われます。多くの専門領域では大学が基幹病院になる予定です。しかし、内科は大学よりも一般病院が多く基幹病院になります。

加西病院は臨床研修制度で生じた地方病院の医師不足を、より良い教育体制を築くことで乗り越えてきました。今回の専門医制度改訂が引き起こす可能性がある地方医療の混乱に対しても、教育研修で人を育てる病院文化を推し進めることで乗り越えて行きたいと考えています。

そのためには、地域住民の皆さまが医師をはじめ病院職員を大切に育てると意識が大きな意味を持つと考えます。加西病院を大切に育てるといって皆さまのご支援をよろしく願います。

(病院事業管理者・院長 山邊裕)

ひょうご防災リーダー講座の受講者募集

巨大地震などの大規模災害に備え、地域防災の担い手となるリーダーを養成する講座です。

日程／10月10日(土)から平成28年3月までの土曜日で全12回

場所／兵庫県広域防災センター(三木市)

対象／自主防災組織のリーダーなど地域防災の担い手をめざす方で、県内在住、在勤、在学の方

受講料／無料(教材等実費負担あり)

申込／市危機管理課の窓口にある申込書を郵送。県広域防災センターのホームページからも申し込みできます。

申込締切／9月30日(水)必着

申込先／〒673-0516 三木市志染町御坂1-19
兵庫県広域防災センター 防災教育担当
☎0794-87-2920